

町民の広場



職業 自動車販売
五十嵐公憲 さん
(39歳)

1980年倶知安町に生まれ、倶知安高等学校を卒業し、自動車ディーラーにて16年勤務最後の3年半は札幌にて勤務し、平成26年倶知安町に戻り株式会社カーオフィス北海道を設立しました。

自動車ディーラー時代より、町の皆さんの方々のお世話になっておりその中で、先輩諸兄が町のために活躍する姿を目の当たりにして『自分も町のために！』という思いがあり、倶知安に戻って自分で経営をする決意に至りました。

お蔭様で、「生まれ育った地域に愛される商い」を信念に、たくさんの方に応援していただき支えられながら4年が経過いたしました。

倶知安町では、国際観光都市として成長を続け、北海道新幹線の開通や高規格道路の延伸など明るい話題が多数あり全国的にも注目されておりです。

しかし、そのような中で、地元企業においては人手不足や後継者問題等さまざまな問題を抱えており、廃業される店や譲渡する店が増加しているように感じます。そのような問題に関心をもち、いつも議会をみております。

行政任せではなく責任世代としてどのように対処していかなければならないのか考えた時に、まずは、倶知安の町が子どもたちにとって『ずっとこの町で暮らしたい』と思える魅力のある町にする事。そして

『この会社に就職してみたい』と思える企業づくりをしていく事だと考えます。他市町村では少子高齢化が加速度的に進む中で、倶知安町においては子どもたちの人口比率が横ばいという現状を考えると、今だからこそ先輩諸兄が作り上げてきた町の歴史や文化を次世代の子どもたちに残すこと、時代にあった方法で子どもたちにとって魅力あるまちづくりを行うことが重要であると思います。

そして、企業としては人材確保のために、HPやSNSなどを活用した情報発信や学生・子ども向けの実務体験、福利厚生の実施等、多方面に目を向け努力していかなければならないと思います。

終わりに、私たちのまちがよりいっそう活気あふれる魅力ある町となるように、官民一体となって様々なことに取り組み、当事者意識を持って私自身も地域活動へ積極的に参加して参りたいと思います。

(原文のまま)

議長室からこんにちは

このたびの西日本豪雨災害に際し、お亡くなりになられた方々に衷心より哀悼の意を表すとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

クツチャンの地名はアイヌ語のクツシャニから名付けられ、町を流れる尻別川の支流、倶登山川の旧地名だそうです。クツシャニとは「くたのよう」なところを流れるところ」の意があり、クツシャニがクツシャニとなり漢字の倶登山川に、そのクツシャニが倶知安の地名になったそうです(倶知安町史上巻3頁)。

倶知安の地名は諸説様々ですが、アイヌ語の曲がりくねった川という意味の倶登山川の氾濫原である北部は、雪解け期や大雨時にはたびたび流路を変える暴れ川でしたが、多くの先人の苦勞により肥沃な畑となりました。

7月の大雨で倶登山川が氾濫しました。今、自然の猛威による大災害が頻発しています。多発する大地震、火山噴火、ゲリラ豪雨、積雪害、風水害、土砂災害等で各地では甚大な被害を被っています。

過去の災害を教訓にし、今後必ず起こりうる大災害を想定して、一人一人が防災・減災の知識を身につけておく必要があります。

倶知安町地域防災計画は目的や方針等示されていますが、まだまだ「計画書」の段階です。生命と財産を守るべく「自助・互助・協働」の原則を通じ、防災・減災に対して十分な意識・知識・技能を

有した災害発生時の避難誘導・人命救助さらに災害発生後の復興活動・事業継続など、具体的な訓練に移す時です。

また、町内会においても水道や電気が途絶した環境での泊り込みや炊き出しの訓練を行うなど、災害に強い団結した町内会活動を期待するところです。

北海道の中で倶知安町は降水量が少なく平均的に災害の少ない地域にあたりますが、台風など条件が揃えば本州並みの大雨が降ることもあります。尻別川の川床も土砂の堆積が多くなっているため大災害となりやすく、これからの台風接近時にはより一層の警戒が必要となります。今回の災害で浸水、被災した畑の遅しい治癒力を期待して、豊潤な秋となることを願っています。



北海道町村議会議長会表彰

(議長7年以上)

倶知安町議会議長

鈴木 保昭